

普及活動の成果

様式6（左）

課 題 名	集落営農組織を核とした中山間地域の活性化	振 興 局 名	県北振興局
活 動 対 象	(農)長溪の風御厨木場、御厨木場集落、(農)清流の里木場	実 施 期 間	平成30年4月～平成31年3月

【対象の概要】

松浦市御厨町の木場集落は、17年間中山間地域等直接支払交付金を利用し、草払い、農業及び水路補修の共同作業を実施してきた。高齢化の進展に伴い、中山間直接支払の役員を中心に集落営農の法人化に取り組むことになった。

【課題設定の背景】

- 1 集落営農法人設立に向けて、取組を進め、平成29年3月に設立総会を開催し、(農)長溪の風御厨木場を立ち上げた。集落営農法人設立にあわせ、収益を確保するために水田の高度利用の経営モデルが必要となっており、柱となる高収益品目の導入と安定生産が求められている。
先行して法人化した(農)清流の里木場との連携も求められており、法人間の連携に取り組む必要がある。(農)清流の里木場では、大豆の試作2年目であり、収穫作業の機械化が求められている。
- 2 集落営農法人設立を契機に、集落住民の交流の場や集落住民の活躍の場づくりなど地域づくりが求められている。

【活動目標】

- 1 集落営農組織（法人）を核として、法人経営の安定を図る。
- 2 法人間の連携を支援し、共通する課題の解決を図る。
- 3 新規品目を導入し、高収益を得られる経営体制を目指す。
- 4 話し合いの場を作り、生活環境の充実と活性化を図る。

【関係機関との連携（活動体制・役割分担）】

松浦市、JA ながさき西海、長崎県県北振興局等からなる松浦営農技術者会にて、進捗を報告し情報共有を図った。

【活動経過】

- 1 集落営農組織を核とした地域農業の活性化
 - (1) 長溪の風のブロックリーの作付け状況の巡回の後、清流の里のH29、H30大豆の実績、両法人の水稻「なつほのか」の栽培実績、両法人の決算など法人役員間で連携の場を持った。
 - (2) 定植時に十分な労働力が確保できず、定植作業に遅れが生じたことから、法人組合員へ「労働力提供に関する調査」を提案し、実施することになった。
 - (3) 農事組合法人清流の里木場では、大豆の栽培技術指導による収量確保と収穫作業の効率化を支援した。収穫作業については、JA伊万里と調整し、JA伊万里の委託による大豆のコンバイン収穫を支援した。収穫作業は短時間で終了し、収穫後の乾燥、調製作業も委託することができた。
 - (4) 新規品目の導入では候補として万次郎かぼちゃ、サトイモ、小菊等を検討してきた。協議を重ね、サトイモを導入することとし3月中旬に圃場準備を行い、定植を4月中旬頃に行うことになった。。
- 2 松浦地区での露地園芸品目の推進
 - (1) チーム会を開催し、関係機関（JA、松浦市）と情報共有を行った。また、現地検討会を開催し、除草や施肥など栽培管理上の課題をJA担当者で連携して情報共有した。
 - (2) 雲仙市のJA島原雲仙のブロックリー優良産地視察や額縁明渠用機械の実演会を実施し、排水対策の検討を行った。
- 3 集落営農組織を核とした中山間集落の活性化

額縁明渠のための圃場の排水対策や道ならしのための道路整備等が御厨木場の集落ビジョンにあったことから、バックホー（中古）の活用を支援した。操作は、組合員が自ら行った。

【普及活動の成果】

- 1（１）連携会議の開催により両法人で１２名の参加があり、法人運営の課題を克服する上で有益な情報交換の場となった。
- （２）ブロッコリーの一時的貯蔵用施設として冷蔵庫を平成３１年度に補助事業対応予定となった。
法人組合員対象の「労働力提供に関する調査票」の配布ができた。
- （３）大豆の単収は１８８kg／１０a（県平均単収１１４kg／１０a）、品質１等と良い結果が得られ、作業の省力化もできた。来年度は、大豆を１．３ha程度に拡大予定である。（清流の里木場）
- （４）新規品目の導入。サトイモ展示圃として７a試作し、定植を４月中旬頃に行うことになった。
- 2（１）現地検討会の開催により除草、肥培管理など栽培上の注意点について関係機関と情報共有を行い、課題解決に向けて連携して行う機運が高まった。
- （２）雲仙市の優良事例を視察することにより、今後のブロッコリーの振興に役立った。
- 3 額縁明渠のための圃場の排水対策や道路整備のためのバックホー（中古）の導入が行われた。



＜ブロッコリー現地検討会＞



＜法人連携会議現地視察＞

【対象の声】

土地条件が悪い中で、狭地直しなど、これらの改善について資金面等の支援を願う。鉾害復旧事業で実施したところは、使い勝手が悪い。中間機構絡みで負担金無しで土地基盤整備が出来るとのことなので、情報提供をお願いしたい。

【今後の課題】

- 1（１）両法人が取り組んだ水稻「なつほのか」の展示圃成績など興味あるデータを提供できたことから、今後、共通する課題の解決についてタイムリーな情報提供の必要がある。
- （２）松浦市農業委員会が農地利用のアンケートを実施予定であり、その結果に基づき効率的な土地利用を検討する。冷蔵庫について、平成３１年度の補助事業導入に向けて支援していく。
- （３）農事組合法人清流の里木場では、大豆の収穫調製作業の機械化が図られたので、これを定着させるため、圃場の選定と作付拡大を検討する。
- （４）サトイモ展示圃の設計に基づき、導入定着に向けて支援する。また、更に中山間地向けの作物がないか、引き続き検討する。
- 2 「労働力提供に関する調査」の調査票を回収の上、結果を分析し、労働力の調整について支援する。除草、病虫害防除など基本技術の励行について、検討会を通じ行う。
- 3 引き続き、経営を軌道に乗せるための生産対策指導を行うとともに、農産加工や住みやすい環境作りなど集落の活性化に向けた協議を継続していく。

【成果の活用及び普及活動上の留意点】

法人経営が軌道にのるには暫くかかる見込みであり、継続して支援する必要がある。

【発表・参考資料】

なし